

開催報告

土木学会 平成 18 年度全国大会(第 61 回年次学術講演会)の報告

三井化学産資(株) 山崎真司

土木学会の平成 18 年度全国大会が、2006 年 9 月 20 日(水)～22 日(金)の 3 日間、立命館大学 びわこ・くさつキャンパスで開催されました。大会では、論文発表のほかに特別講演会、全体討論会、研究討論会、パネルディスカッション、パネル展示、コンクリートカヌー競技などが行われました。今年度の全国大会テーマは「土木のグローカリゼーション～世界市民になろう～」とされており、特別講演会では、「自然災害軽減への土木学



会の役割」と題して、濱田政則氏(平成 18 年度土木学会会長)が講演されたほか、全体討論会では、土木内外で活躍のパネリストを招いて、土木におけるグローカリゼーションについて多様な視点から議論が行われました。「グローカリゼーション」とは、グローバリゼーションとローカリゼーションを組み合わせた言葉で、「ローカル性を活かした活動を行い、それをグローバルに発信する」ことを意味し、世界がグローバルな活動に統合される一方で、地域性を活かした地域主体の活動を創出していくことにより地域が自立し、世界に向けて発信していく活動のことです。

年次学術講演会は、7 部門、2 セッションの構成で実施され、3,100 以上の講演が行われました。ジオシンセティックス関連の講演としては、私が確認できた限りでは、「補強土」、「地盤の動的挙動」、「パラスト軌道」、「ダム」、「埋立処分場管理」、「騒音・振動」などで、講演が行われていました。今年は、9 月 18 日～22 日まで横浜で IGS 国際会議が開催されたこともあって、例年に比べてジオシンセティックス関連の講演の参加者数が少なく感じられました。

次回の大会は、2007 年 9 月 12 日(水)～9 月 14 日(金)の 3 日間、広島大学東広島キャンパスにて開催される予定です。